

東京・谷中のリボン工場に残された見本帳 特別内覧会のご案内



明治27年(1884)、白木屋の支配人を務めた岩橋謹次郎が日本で最初のリボン工場・岩橋リボン製織所を東京・谷中に設立します。明治期の洋風化の中、帽子の飾りや女学生の髪飾り等の需要増に伴って同社は発展、東洋一のリボン工場と言われました。同工場の草創期には、足利(小俣)出身の青木道蔵が工場長として生産の安定化に貢献、織子や染色の職人等として多くの両毛地域の人々を雇い、そのリボン作りを支えました。そして大正8年(1919)には、前原悠一郎(日本絹撚(株)社長)が、同工場の桐生分場の誘致活動を行うほどでした。

青木工場長の下でリボン作りを学んだ渡辺四郎、鈴木哲が、その後の経営を引き継ぎます。中でも渡辺は織物技術を学ぶため渡欧、多くの見本切れや専門書籍を蒐集しました。同社は買収により三井系列の東京リボン製織(株)を経て、千代田リボン製織(株)(渡辺四郎社長)、千代田リボン製織所(鈴木哲社長)となり、昭和41年(1966)その幕を閉じます。

近年の再開発のため、鋸屋根のこの工場は解体されましたが、その際、戸棚の奥に保存されていた見本帳や書籍が発見されました。これらの見本帳には蒐集した切れと、この工場で製造したものがあり、合計16冊が残されていました。現在、この貴重な資料は、地元で地域づくり活動を進める「谷中のこやね会」によって管理、保存されています。

今回、同会のご協力により、この見本帳の中から、蒐集品を中心に約120点を特別公開させていただきます。

日時：2019/1月24日(木) 15:30-17:00 25日(金) 14:00-16:00

会場：群馬県繊維工業試験場(2F オープンイノベーションルーム)

・お申込み/お問合せ：企画連携係(久保川、斎藤)

Tel: 0277-52-9950 Fax: 0277-52-3890

主催：群馬県繊維工業試験場/協力：谷中のこやね会/監修：新井正直(染織史家)